

車への取り付けは、必ずこの取付説明書と別冊の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ

接続、取り付け作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様へお渡しください。

※ 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

パイオニア株式会社

〒212-0031

神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

© パイオニア株式会社 2010

< KAMZX > < 10G00000 > < CRA4416-A/S >

作業の進めかた

① はじめに

- 接続・取り付け部品を確認する 2

② 接続のしかた

- 接続の前に知ってほしいこと 4
- 接続端子の名称と働き 6
- システムの接続 8
- 電源コードの接続 (1) 10
- 電源コードの接続 (2) 12
- TVチューナー/IP-BUS機器/VTR/
バックカメラ/リアモニターの接続 14
- 5.1ch対応・DSPユニットとの接続 16
- サブウーファアの接続 18

③ 取り付けかた

- 取り付けの前に知ってほしいこと 20
- ナビゲーション本体の取り付け 21
- GPSアンテナの取り付け 24
- 音声認識用マイクの取り付け 25
- リモコンの取り付け 26
- フィルムアンテナの取り付け 30

④ 接続・取り付けたら

- 接続・取り付けの確認を行う 38
- 取付角度の設定を行う 40
- サブウーファアの設定を行う 40
- AV初期設定を行う 41
- センサー学習のエラーメッセージ 42

接続・取り付けたら、必ず接続・取り付けの確認～AV初期設定 (P. 38～41ページ) を行ってください。

接続・取り付け部品を確認する

ナビゲーション本体関係



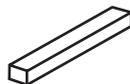
ナビゲーション本体
× 1



パインドネジ
(5 × 6 mm) × 8



皿ネジ
(5 × 6 mm) × 8



スペーサー
× 1

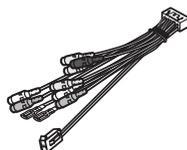
接続ケーブル関係



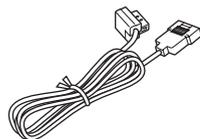
電源コード × 1



UIエレメントコネクター
× 1



RCA入出力
ケーブル × 1



携帯電話接続中継
ケーブル × 1

音声認識用マイク関係



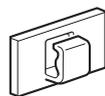
音声認識用マイク × 1



マイククリップ × 1

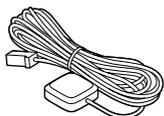


両面テープ
(12 × 15 mm) × 1



クランパー × 3

GPSアンテナ関係



GPSアンテナ × 1



金属シート × 1



クランパー × 3

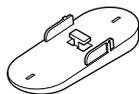


両面テープ × 1

リモコン関係



リモコン × 1



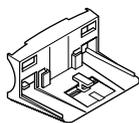
リモコンホルダー × 1



両面テープ × 1

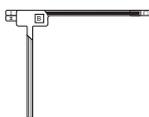


ベルト × 2



ステアリング
ホルダー × 1

フィルムアンテナ関係



フィルムアンテナ × 1



アンテナケーブル × 1



クリーナークロス × 1



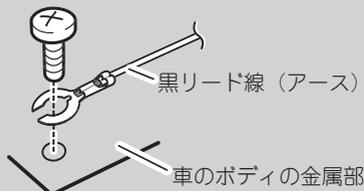
クランプ × 3

接続の前に知ってほしいこと

— 必ず車のバッテリーを外してから接続してください —

接続上のご注意

- 本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



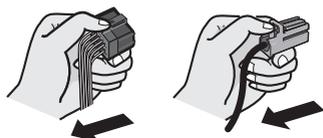
- 本機は、エンジンスイッチにACCポジションがない車では使用できません。絶対に取り付けしないでください。取り付けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗します。
- 若草色リード線（パーキングブレーキスイッチ）は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。接続しないと一部の機能が使用できなくなります。
- 黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。

- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。
- スピーカーのリード線を直接アースしたり、複数のスピーカーの（－）リード線を、共通にして接続しないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力50W以上のハイパワー用で、インピーダンスが4Ωから8Ωのものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーやアンプの発火・発煙・破損の原因となります。
- ガラスアンテナ車など、アンテナブースターの電源がある場合、必ず本機の青リード線（アンテナコントロール）を車側のアンテナブースターの電源に接続してください。接続を忘れるとラジオ放送の受信ができません。

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります。詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

コネクターの着脱のしかた

- コネクターは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。スムーズに入らない場合は、色が間違っている可能性がありますので、コネクターどうしの色を確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。
- コネクターを外すときは、図のようにコネクター部分を持ってロックを押しながら引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。



接続のポイント

ノイズ防止のために

- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AMアンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPSアンテナおよびそのアンテナコード
 - * ピーコン受信機およびそのアンテナコード
- それぞれのアンテナコードどうしてもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感度が悪くなります。
- RCAコードに何も接続しない場合は、付属のキャップを外さないでください。

IP-BUSの接続について

- IP-BUSの端子とケーブルは、同じ色どうしを接続してください。(コネクターの接続部分が色分けされています。) 違う色のコネクターを接続すると、正常に動作しないことがあります。

電源配線キットを別売しています

- システム全体の消費電流が大きくなると、電圧が不足する場合があります。そのようなときは、バッテリーから直接電源をお取りください。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

携帯電話接続ケーブルまたは、Bluetoothユニットを別売しています

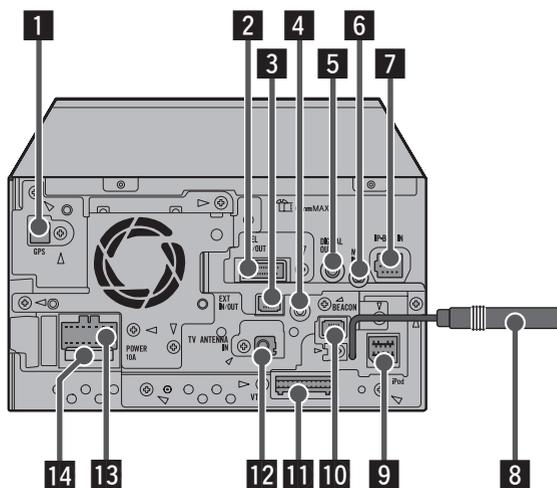
- 当社では、携帯電話と組み合わせるための携帯電話接続ケーブルまたは、Bluetoothユニットを別売しています。
 - * PDC用ケーブル「CD-H13」(2 m)
 - * CDMA 1X/cdmaOne用ケーブル「CD-H14」(4 m)
 - * FOMA用ケーブル「CD-H15」(2 m)
 - * CDMA 1X WIN用ケーブル「CD-H16」(2 m)
 - * Bluetoothユニット「ND-BT1」

ピンクリード線の接続について

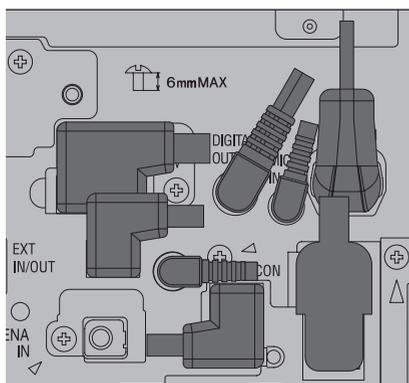
- ピンクリード線(車速信号入力)は、内蔵の3Dハイブリッドセンサー用のリード線です。必ず接続してください。
- ピンクリード線を接続しない場合は、簡易ハイブリッド方式で動作し、測位誤差が大きくなる場合があります。(『ナビゲーション&オーディオブック』の「ナビゲーションのしくみ」)
- ピンクリード線を車の車速検出回路に接続するのが困難な場合は、車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)をお使いください。

接続端子の名称と働き

— 必ず車のバッテリーを外してから接続してください —



■背面接続例



- ・ ETCコネクタを先に挿すと、携帯電話接続中継ケーブルが挿せなくなります。
- ・ 本体背面に無理な接続をすると、接続端子が取り外しにくくなります。ご注意ください。

1 GPSアンテナ接続端子（緑）

付属のGPSアンテナを接続します。
(8～9ページ)

2 電話入出力端子（赤）

付属の携帯電話接続中継ケーブルを接続します。その先には携帯電話や通信モジュールなどの通信機器やUSBメモリを接続できます。(8～9ページ)

3 拡張入出力端子（黒）

別売のETCユニット「ND-ETC5」を接続できます。(8～9ページ)

4 ガイドスピーカー出力端子（青）

本機と5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を組み合わせた場合、ナビゲーションの音声案内を出力するために接続します。
※接続しない場合はシールをはがさないでください。(16～17ページ)

5 デジタル出力端子（灰）

別売の光デジタル端子変換コネクタ「CD-DD25」を使用して5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続できます。
(16～17ページ)

6 音声認識用マイク入力端子（黒）

付属の音声認識用マイクを接続します。
(8～9ページ)

7 IP-BUS入力（青）

IP-BUS出力のある製品を接続できます。
(14～15ページ)

8 AM/FM/VICS/FM多重用アンテナ入力端子

車載のラジオ用アンテナを接続します。
(8～9ページ)

9 iPod 接続端子（黒）

別売のiPod用接続ケーブル「CD-I021」を使用してiPodを接続できます。
(8～9ページ)

10 ビーコン接続端子（青）

別売のVICS用ビーコンユニット「ND-B6」を接続できます。(8～9ページ)

11 映像・音声入出力端子（白）

付属のRCA入出力ケーブルを接続します。
(14～18ページ)

12 ワンセグアンテナ入力端子（茶）

付属のフィルムアンテナを接続します。
(8～9ページ)

13 電源端子（黒）

付属の電源コードを接続します。
(10～13ページ)

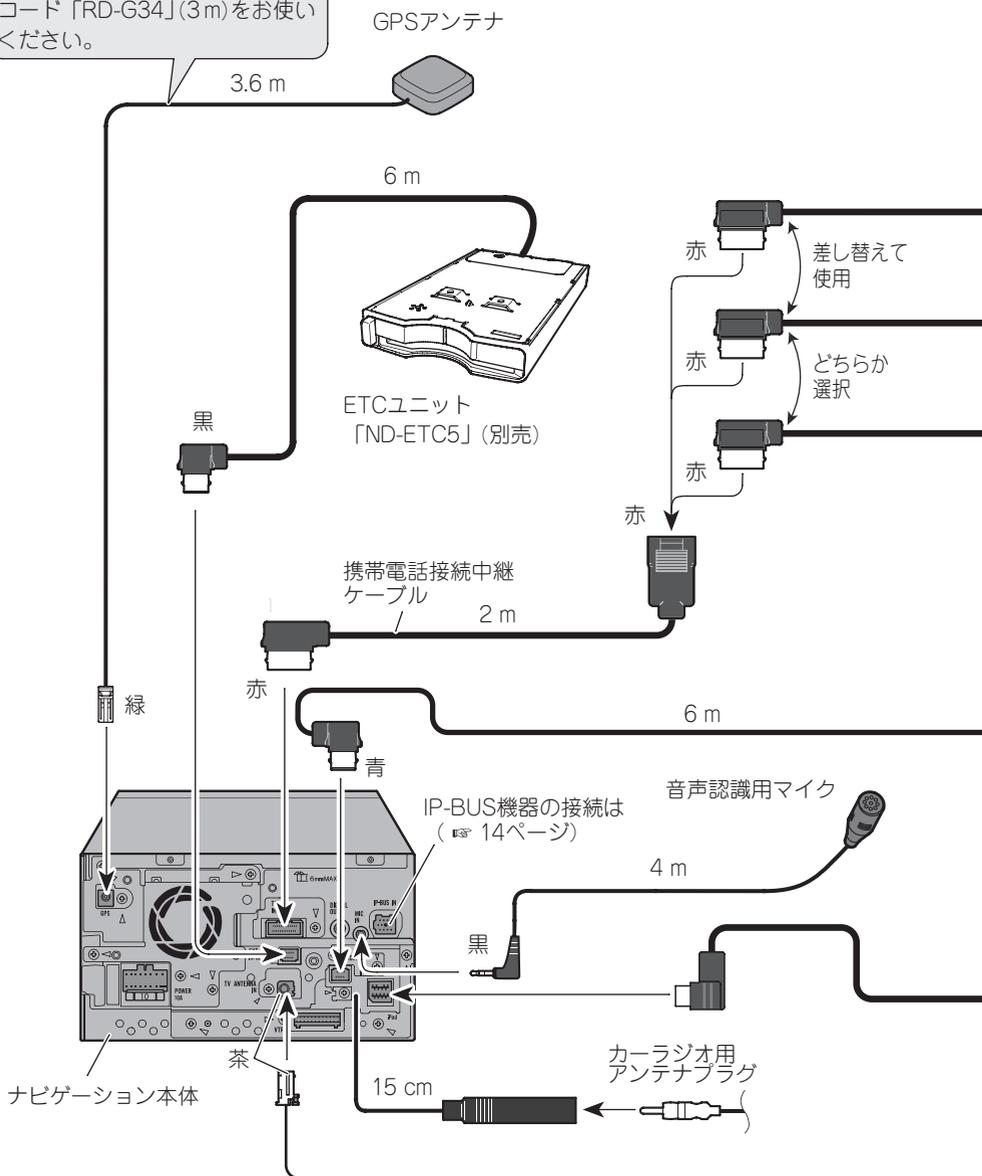
14 ヒューズ（10 A）

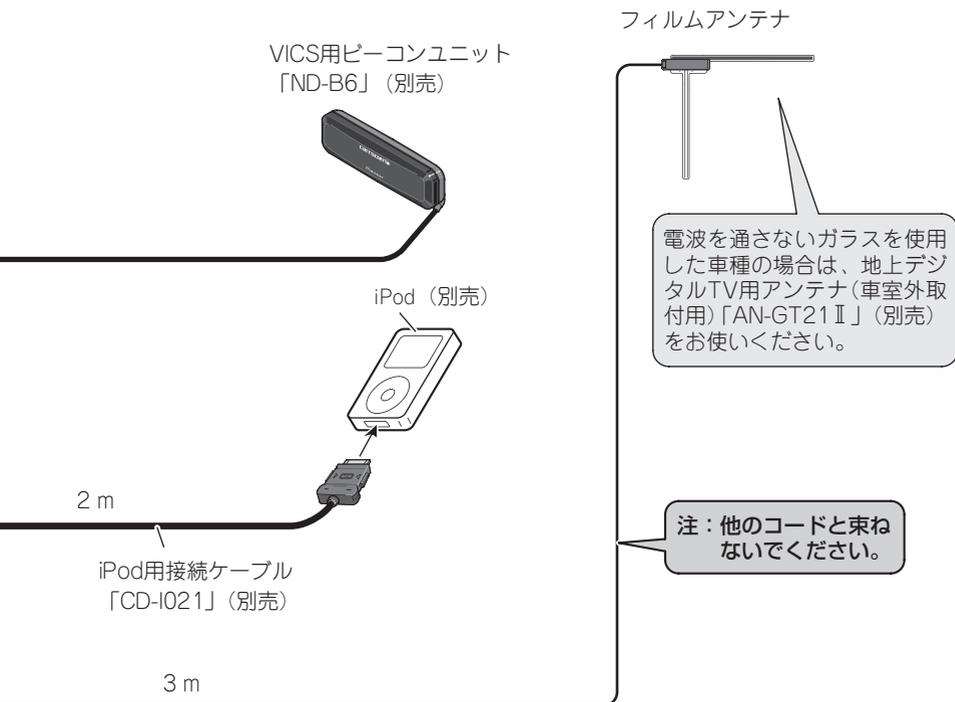
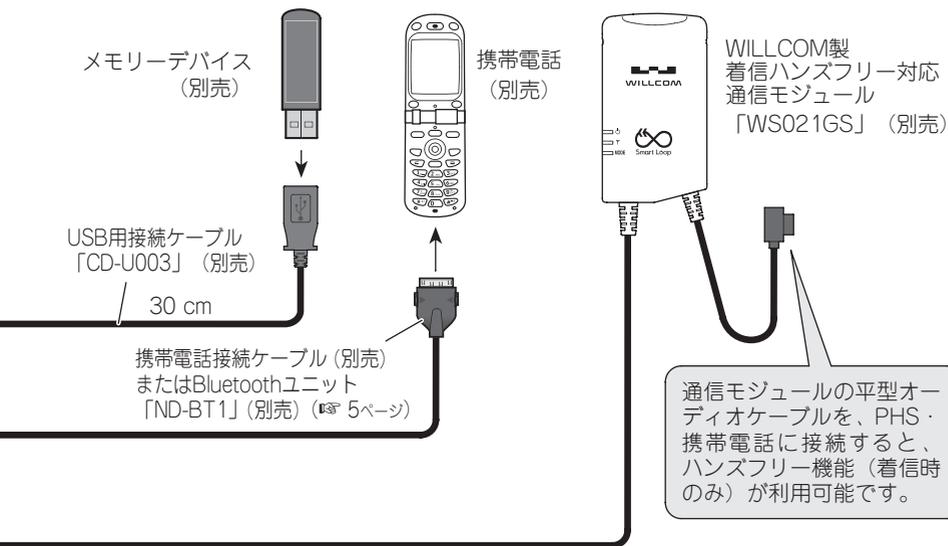
注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

システムの接続

— 必ず車のバッテリーを外してから接続してください —

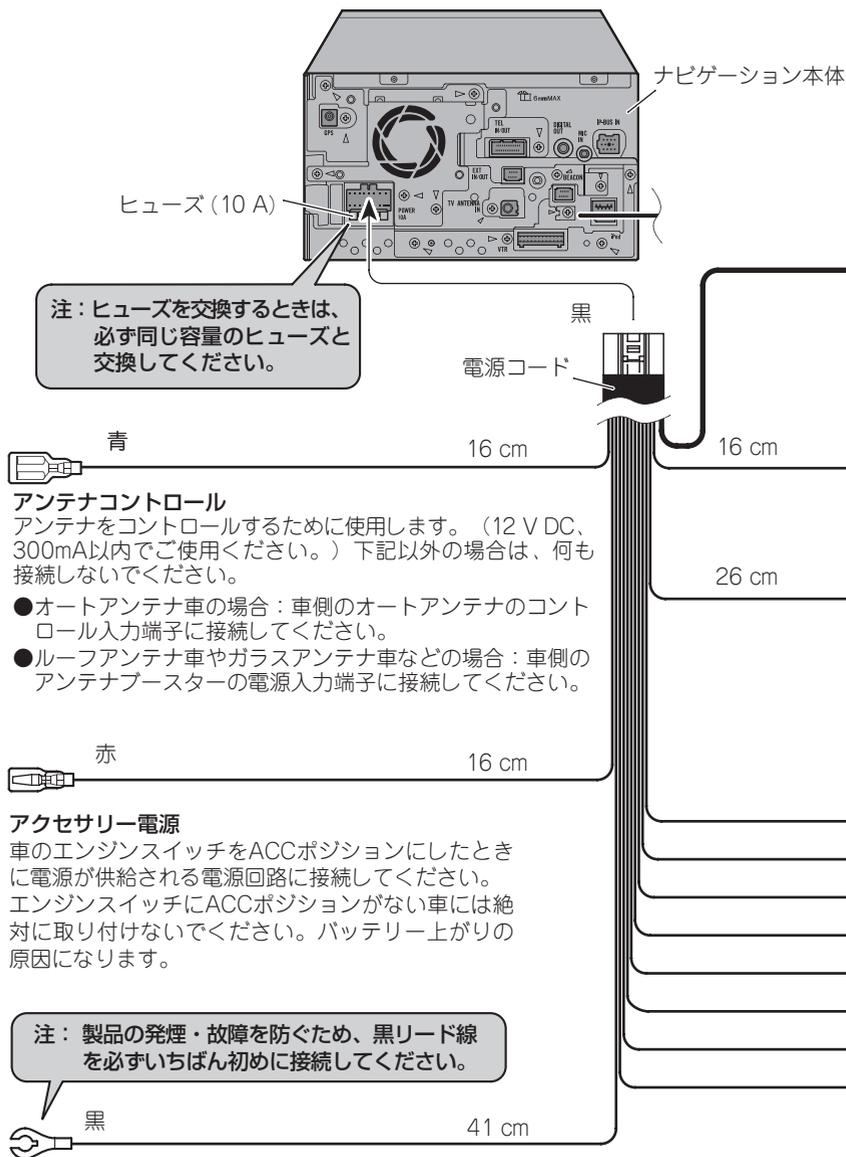
長さが足りないときは、別売のGPSアンテナ「AN-G050」(5m) または別売のGPSアンテナ延長コード「RD-G34」(3m)をお使いください。





電源コードの接続 (1)

— 必ず車のバッテリーを外してから接続してください —



アンテナコントロール

アンテナをコントロールするために使用します。(12 V DC、300mA以内でご使用ください。) 下記以外の場合は、何も接続しないでください。

- オートアンテナ車の場合：車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
- ルーフアンテナ車やガラスアンテナ車などの場合：車側のアンテナブースターの電源入力端子に接続してください。

アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCポジションにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。エンジンスイッチにACCポジションがない車には絶対に取り付けしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

注：製品の発煙・故障を防ぐため、黒リード線を必ずいちばん初めに接続してください。

アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。ノイズ防止のため、できるだけナビゲーション本体の近くに接続してください。

→ 他 の リード線の接続は
(12 ページ)

注：赤、橙/白、黄リード線は車のヒューズユニットを通した後の端子に接続してください。

注：電源リード線の、ヒューズから本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

橙/白

イルミ電源

車のライトをONにしたときに電源が供給される電源回路（時計の照明回路やスモールランプ回路など）に接続してください。

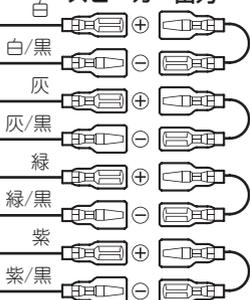
黄

+バッテリー電源

車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

16 cm

スピーカー出力



(左) (右)

フロントSP

リアSP

サブウーファー

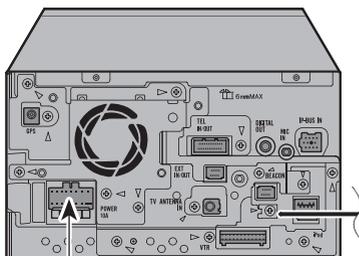
サブウーファースの接続は (18 ページ)

注：スピーカーを接続しないスピーカーリード線には、何も接続しないでください。

電源コードの接続 (2)

— 必ず車のバッテリーを外してから接続してください —

ナビゲーション本体



電源コード 黒

他のリード線の接続は
(P. 10ページ)

バック信号入力

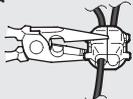
この接続は車の前進 / 後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

※接続しないと前進 / 後退を正しく検知できない事があるため、自車位置がずれる場合があります。

※別売のバックカメラユニットを利用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り替わりません。

注：電源リード線の、ヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

接続方法



バックランプのリード線をはさみ込む。

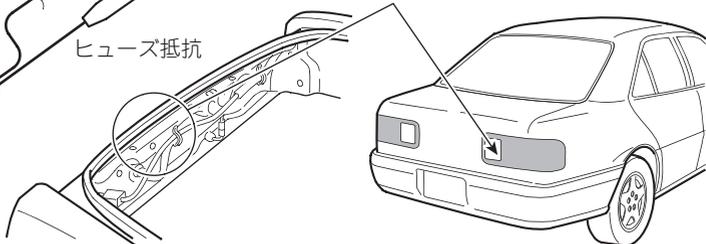
ラジオペンチで強くはさむ。

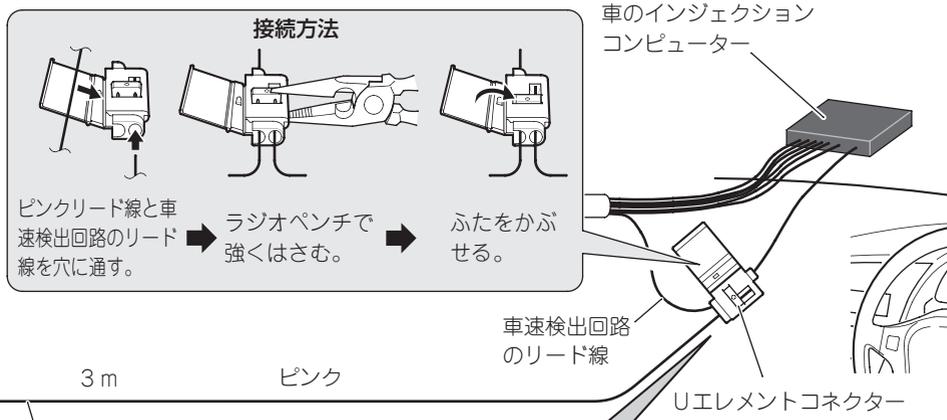
紫/白
8 m

ヒューズ抵抗

バックランプのリード線

バックランプ(シフトレバーがリバース [R] のときに点灯するランプ)の位置を確認し、トランク内から、バックランプのリード線を取り出します。





車速信号入力

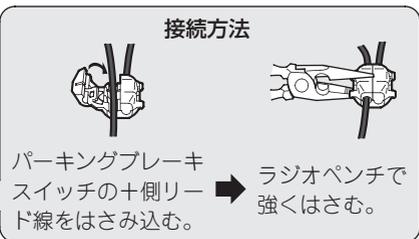
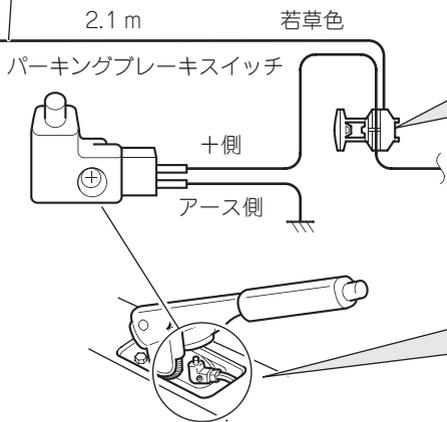
車の走った距離を検出するために使用します。
必ず車の車速検出回路に接続してください。
 (車の車速検出回路への接続が困難な場合は、
 車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)を接続
 することもできます。)

注：必ず付属のUエレメントコネクターを使用してください。指定以外の物を使用すると接触不良の原因となります。

インジェクションコンピューターの車速検出回路の位置は、車種によって異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

パーキングブレーキスイッチ

車が停車していることを確認するために使用します。必ずパーキングブレーキスイッチの+側リード線に接続してください。

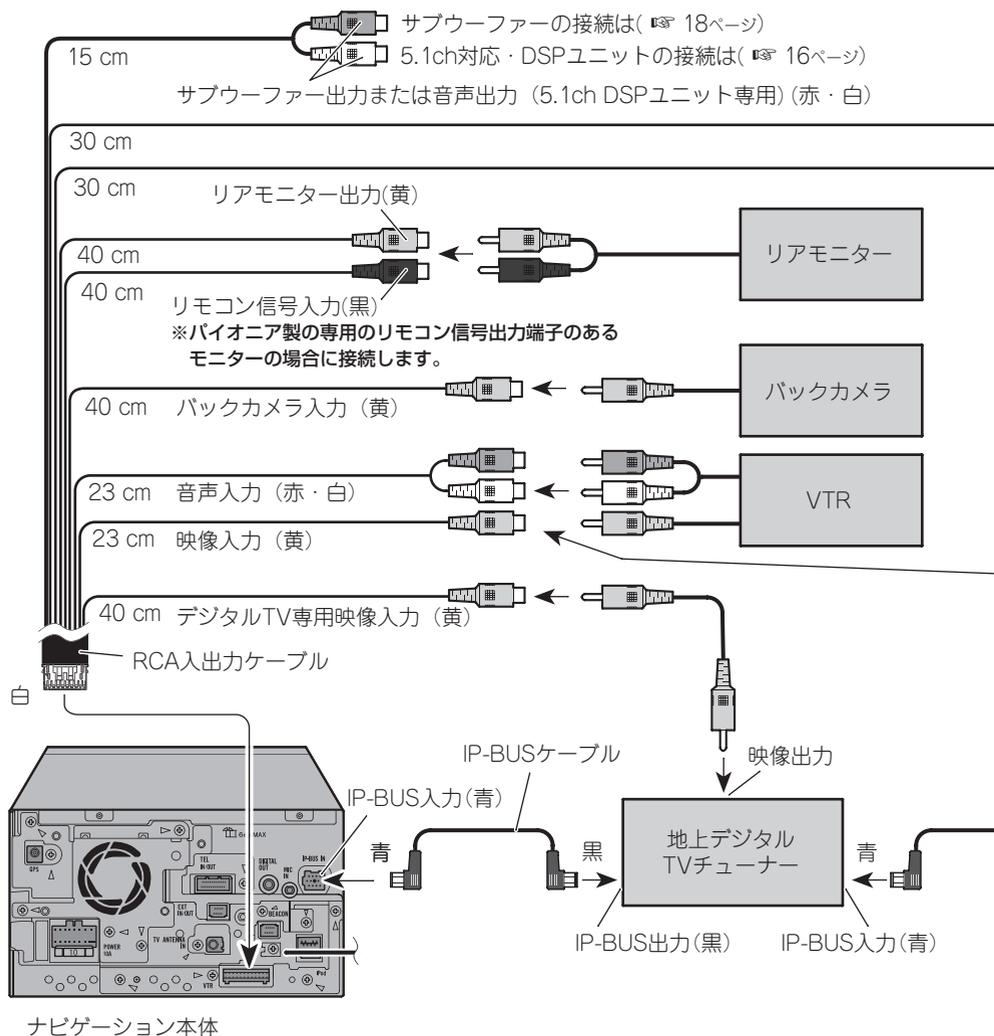


パーキングブレーキスイッチの位置は、車種によって異なります。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。

TVチューナー/IP-BUS機器/VTR/ バックカメラ/リアモニターの接続

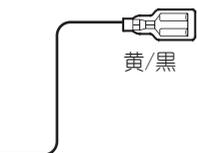
— 必ず車のバッテリーを外してから接続してください —

本機には、下記の外部機器が接続できます。



⚠ 注意

- 接続したリアモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができない位置に設置してください。
- パイオニア製「TVM-Wシリーズ」以外のモニターを接続した場合は画像が乱れる場合があります。また、フロントモニターに表示される映像と画質は異なります。



黄/黒

ミュート

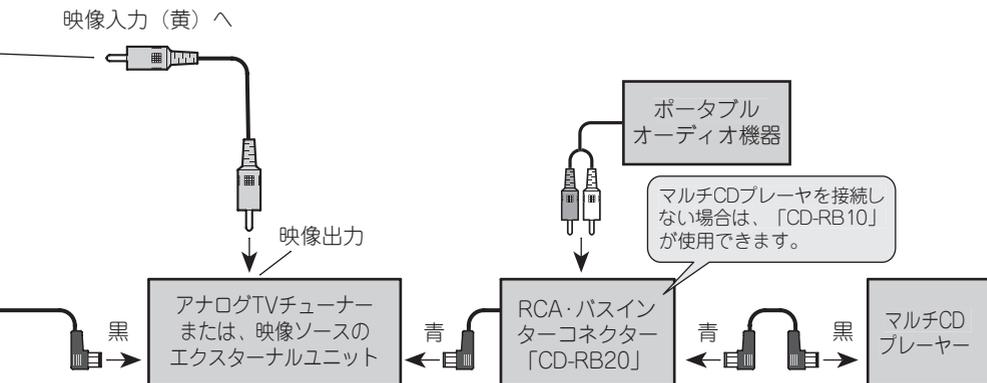
別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」と組み合わせた場合に、オーディオマスターユニット「AXM-P9」の黄/黒リード線に接続します。それ以外は何も接続しないでください。ガイド音声が出力されるときや音声で操作するときに、オーディオミュートがかかり音量が小さくなります。



青/白

システムリモートコントロール

外部アンプのON/OFFをコントロールするために使用します。(本機の電源がONになると、コントロール信号が出力されます。)外部アンプのシステムリモートコントロールに接続してください。(12 V DC、300mA以内でご使用ください。)



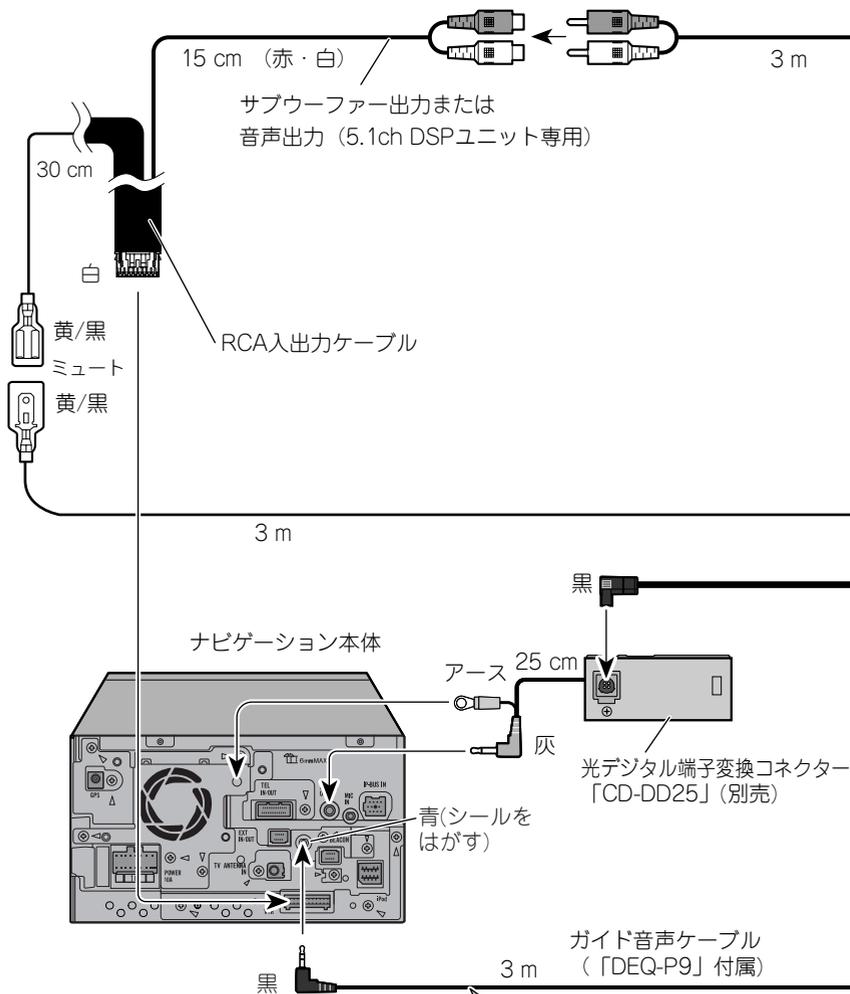
メモ

- 接続するIP-BUS機器にモードスイッチがある場合、IP-SOURCEモードに設定してください。詳しくは、IP-BUS機器の取付説明書をご覧ください。
- エクスターナルユニットは2台まで接続できます。エクスターナルユニットについては、『ナビゲーション&オーディオブック』の「エクスターナルユニットの操作のしかた」をご覧ください。
- VTRや映像ソースのエクスターナルユニットを接続したときは、「AV初期設定」の【映像入力設定】の設定が必要です。(P.41ページ)
- バックカメラを接続したときは、バック信号入力線 (P.12ページ) の接続と、「AV初期設定」の【バックカメラ】と【バックカメラ極性】の設定が必要です。(P.41ページ)

5.1ch対応・DSPユニットとの接続

— 必ず車のバッテリーを外してから接続してください —

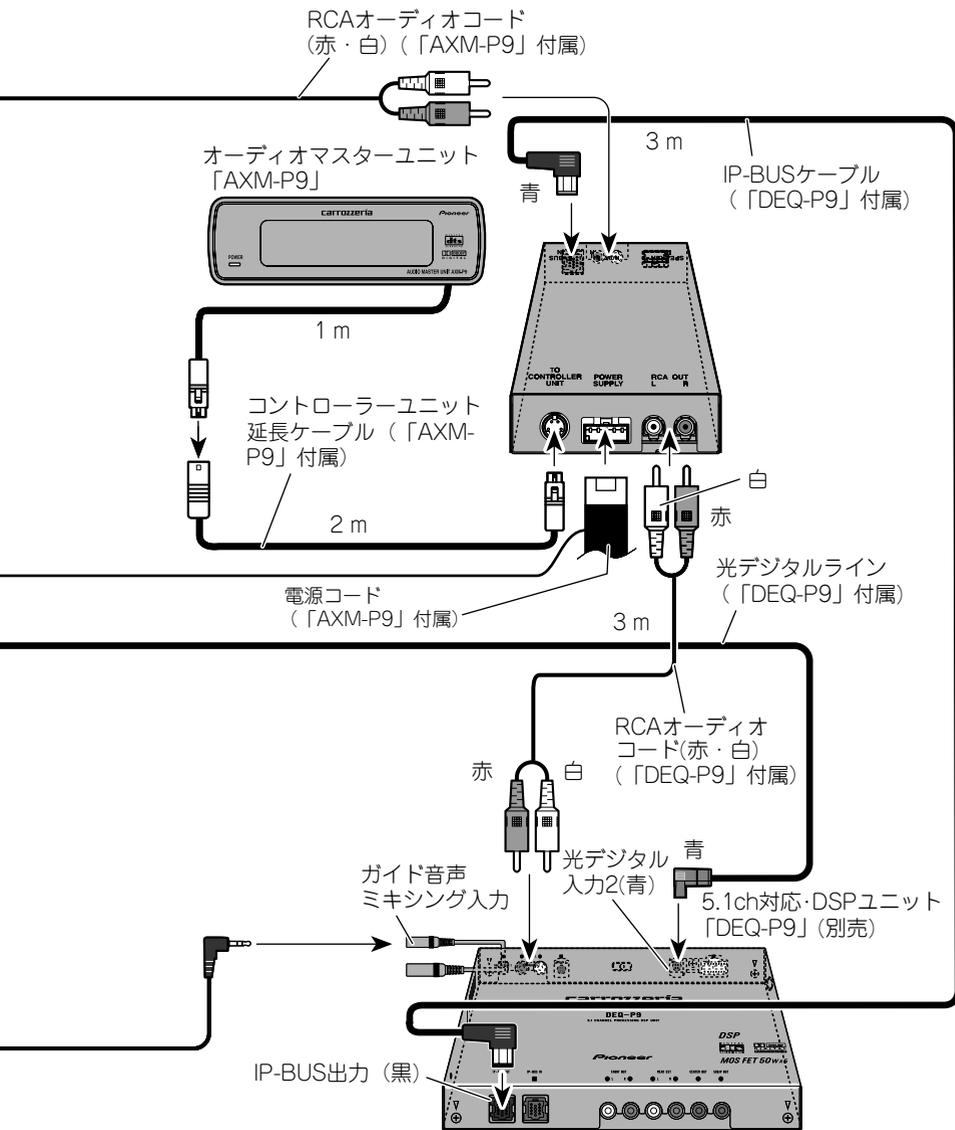
本機には、パイオニア製の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」とオーディオマスターユニット「AXM-P9」が接続できます。



メモ

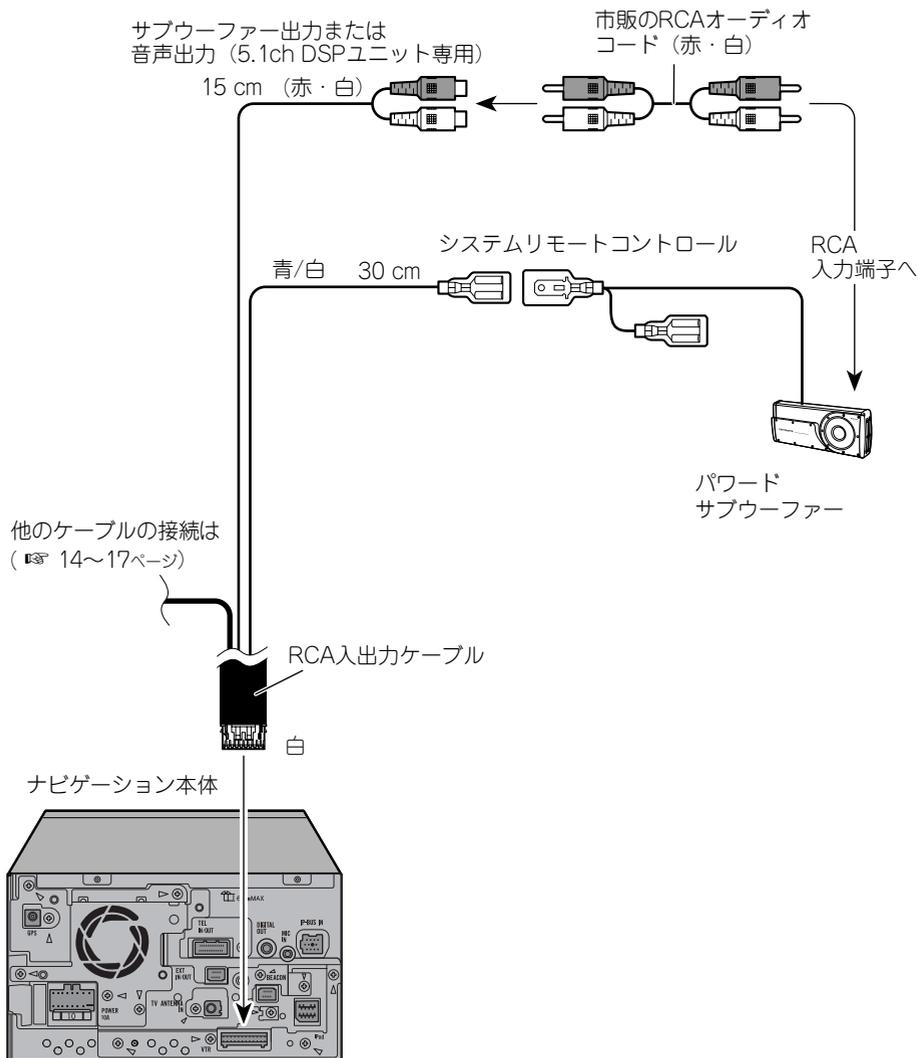
- 本機に5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」などを接続したときは、「AV初期設定」の【5.1ch DSPユニット設定】の設定が必要です。(P.41ページ)

「AXM-P9」はソースONにしてください。ソースOFF時、ナビゲーションのガイド音声は出力されません。この状態でガイド音声を出力させる場合は、ガイド音声用スピーカー「CD-TS36G」(別売)を使用します。



サブウーファアの接続

— 必ず車のバッテリーを外してから接続してください —



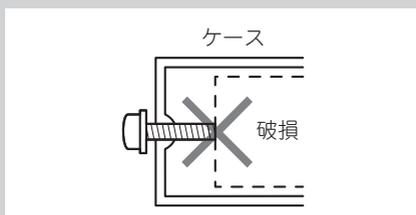
メモ

- 5.1ch対応・DSPユニットとの組み合わせ時には、サブウーファアはDSPユニットに接続します。

取り付けの前に知ってほしいこと

取り付け上のご注意

- 必ず本機に付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認します。このときアンテナ類などは、受信状態の良い位置を確かめてから取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

粘着テープを貼り付ける前に

- マジックテープや両面テープを貼り付けるところは、汚れをよくふきとってください。

ノイズ防止のために

- フィルムアンテナの取り付けのしかたによっては、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。フィルムアンテナは、フィルムアンテナの取り付け (※30ページ) の説明に従って正しく取り付けてください。

- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。

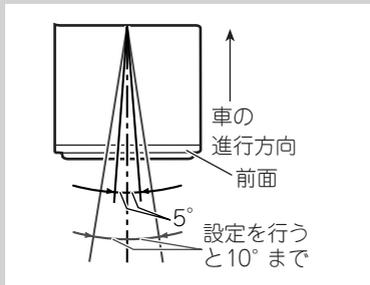
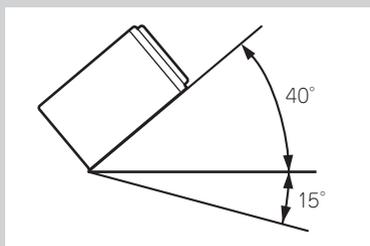
- * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
- * FM/AMアンテナおよびそのアンテナコード
- * GPSアンテナおよびそのアンテナコード
- * ピーコン受信機およびそのアンテナコード

それぞれのアンテナコードどうしてもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感度が悪くなります。

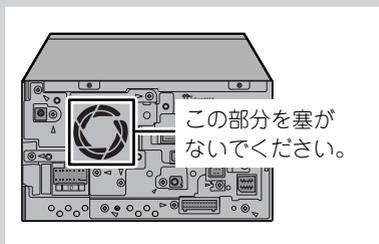
ナビゲーション本体の取り付け

取り付け上のご注意

●本機の性能を十分に発揮するために、上下の傾きはできるだけ水平に取り付けてください。傾けて取り付ける場合は、水平に対して上の傾き40度以内、下の傾き15度以内の角度で取り付けてください。左右の傾きは車の進行方向に対してナビゲーション本体の前面が5度以内の角度で取り付けてください。5度以上10度以内のコンソールに取り付ける場合は、「取付角度の設定を行う」(P.40ページ) で向き設定してください。



- 必ず本機に付属のネジを使用して取り付けてください。付属のネジよりも長いネジを使用すると、本機内部の部品をいためることがあります。
- 放熱を妨げないために、下図の部分のを塞がないように配置してください。



取り付けのポイント

取付キットを別売しています

- 日産車に取り付ける場合は、車種や年式によって別売の日産車用取付化粧パネル「ADT-N979II」が必要になることがありますので、販売店にご相談ください。
- ※本機に「ADT-N979II」を使用する場合は、上部にすきまができるようにパネルを上方向に寄せて取り付けてください。パネルを固定する際は、左右のみテープ止めを行い、上下にはテープを貼らないでください。

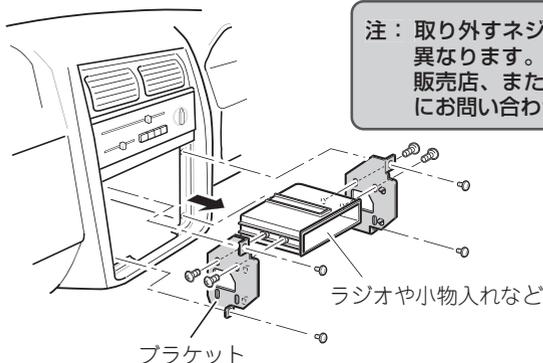
- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意しておりますので、販売店にご相談ください。

ナビゲーション本体の取り付け

つづき

1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを止めているブラケットを取り外します。そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



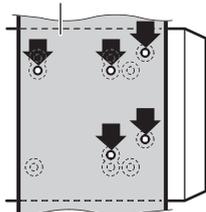
注：取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

2 ネジ止めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。次のネジ穴のうち4カ所または3カ所合う位置があります。

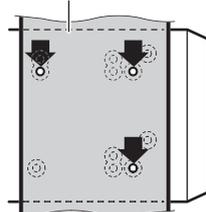
トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



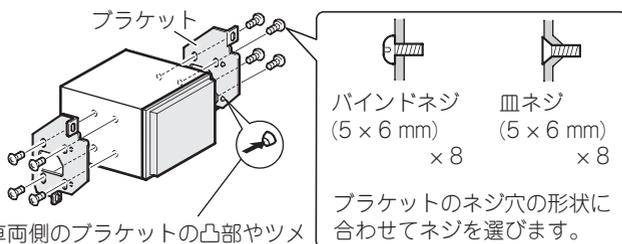
日産車の場合

日産車ブラケット



3 ブラケットを 付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ4カ所（または3カ所）ずつ、付属のネジでネジ止めて、元どおり車に取り付けます。



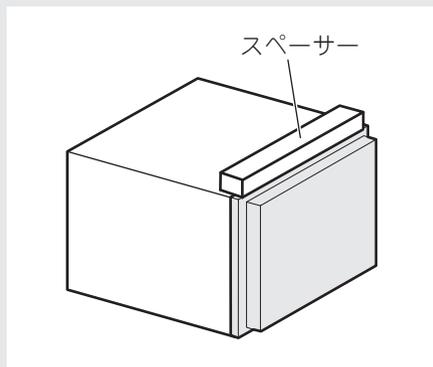
車両側のブラケットの凸部やツメが邪魔になり、浮いてしまう場合は、それらをハンマーなどでつぶす必要があります。

*作業の際には安全に十分ご注意ください。

注：付属のネジ以外は使用しないでください。
付属のネジよりも長いネジを使用すると、
本機内部の部品をいためることがあります。

ナビゲーション本体取り付け後のご注意

ナビゲーション本体を取り付けた後、車両との間にすきまがある場合は、ナビゲーション本体にスペーサーを貼ってすきまをふさいでください。なお、スペーサーを貼る手順は、車両によって異なります。



GPSアンテナの取り付け

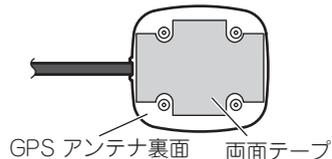
取り付け上のご注意

- 付属のGPSアンテナは車室内取付専用です。電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売のGPSアンテナ（車室外取付用）「AN-G050」（5m）をお使いください。
- GPSアンテナは、ワイパーやピラーなどで遮られない場所に水平に取り付けてください。
- GPSアンテナを塗装しないでください。アンテナの性能が落ちる場合があります。
- GPSアンテナの取り付けには、必ず付属の金属シートを使用してください。使用しないと、十分な受信感度が得られなくなります。
- 付属の金属シートは、切って小さくしないでください。十分な受信感度が得られなくなります。
- GPSアンテナは、ナビゲーション本体から30cm以上離して設置してください。また、余ったGPSアンテナコードをまとめて置くと、ナビゲーション本体から30cm以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下する場合があります。
- GPSアンテナを取り外すときは、アンテナコードを引っ張らないでください。コードが抜けてしまうことがあります。

取付例（ダッシュボード上）

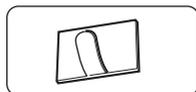
車室内のなるべく水平な場所でアンテナがウィンドウの外に向く場所に金属シートを貼り付け、GPSアンテナを金属シートの上に貼り付けます。アンテナの取り付け位置は[接続状態]画面（P.38ページ）を参考に、十分に受信できる位置に取り付けてください。

GPS アンテナ裏面に、付属の両面テープを下図のように貼ってください。



GPS アンテナ
両面テープの保護シートをはがして貼り付けます。

金属シート
必ず使用してください。
裏面の保護シートをはがして
貼り付けます。



クランパー×3
クランパーで要所を固定しながら、
アンテナコードを引き回します。

音声認識用マイクの取り付け

取り付け上のご注意

ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー(反響音)を軽減する為なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。

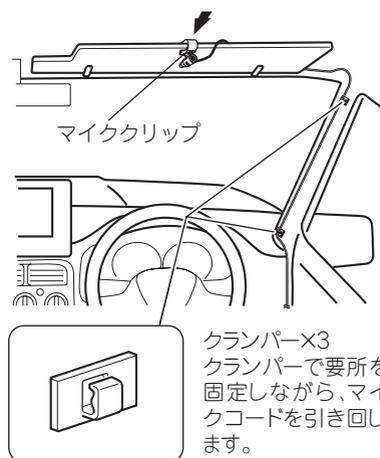
サンバイザーにはさんで取り付ける場合

1 マイククリップにマイクを取り付ける



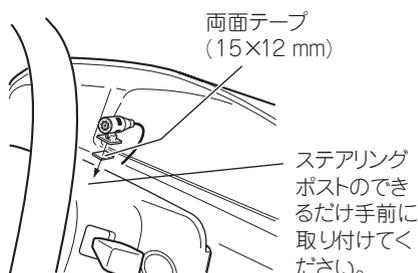
2 サンバイザーにマイククリップを取り付ける

サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、正しく音声認識されません。



ステアリングポストに取り付ける場合

1 ステアリングポストにマイクを取り付ける



クランパー×3
クランパーで要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。



マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、マイククリップの可動部を矢印の方向に動かして調節します。

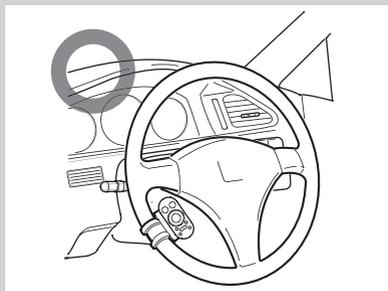
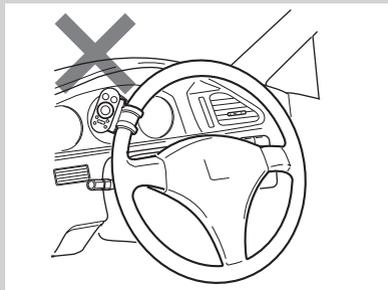


リモコンの取り付け

取り付け上のご注意

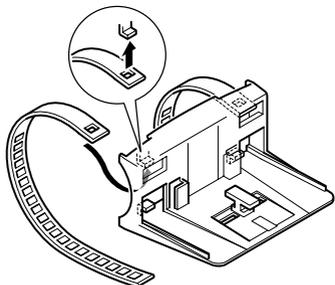
- リモコンは必ず固定しておいてください。固定しないで放置しておくと、リモコンが転がり、ブレーキペダルの下に入り込むと大変危険です。
- エアバッグなどの車の安全装置が働いたときに、その動作の妨げになる場所には絶対に取り付けないでください。
- 車のメーター類の、視認の妨げになる場所には取り付けないでください。
- 取り付ける位置や向きによっては、リモコンの信号がリモコン受光部にとどかない場合があります。固定する前に、取り付ける位置で、動作確認を行ってください。
- ハンドルに取り付けるときは、ハンドルの左または右側のリモコン受光部に近い方（右ハンドル車の場合はハンドルの左側、左ハンドル車の場合は右側）に取り付けてください。逆側に取り付けると、ステアリングリモコンの信号がリモコン受光部にとどかないため、動作しないことがあります。
- ハンドルに取り付けるときは、付属のベルトでしっかりと固定してください。しっかり固定しないと、運転操作の邪魔になり、交通事故の原因となります。

- ハンドルに取り付けるときは、ハンドルの外側に取り付けしないでください。運転操作の邪魔になり、交通事故の原因となります。必ずハンドルの内側に取り付けてください。

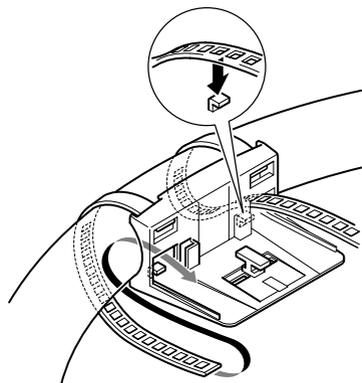


ハンドルに取り付ける場合

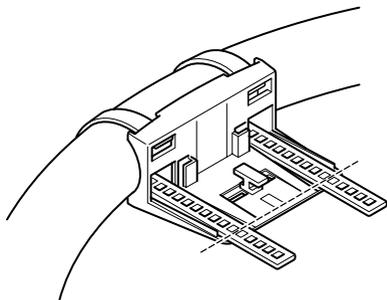
- 1** ホルダーにベルトを取り付ける



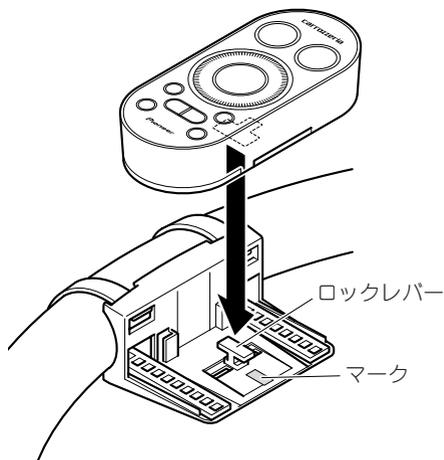
- 2** ハンドルにベルトを巻き付け、ホルダーを固定する



- 3** ベルトの余りを切り取る



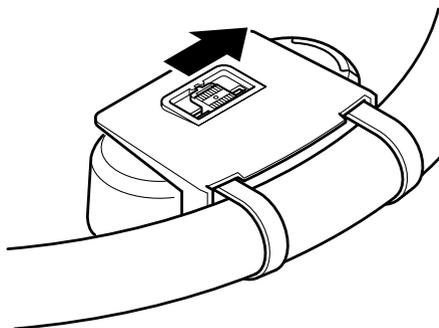
- 4** ステアリングリモコンを取り付ける



メモ

- 取り付け前に、ロックレバーがマークの位置にあることを確認してください。

- 5** 裏側のロックレバーを“カチッ”と音がするまでスライドしてリモコンを固定する



メモ

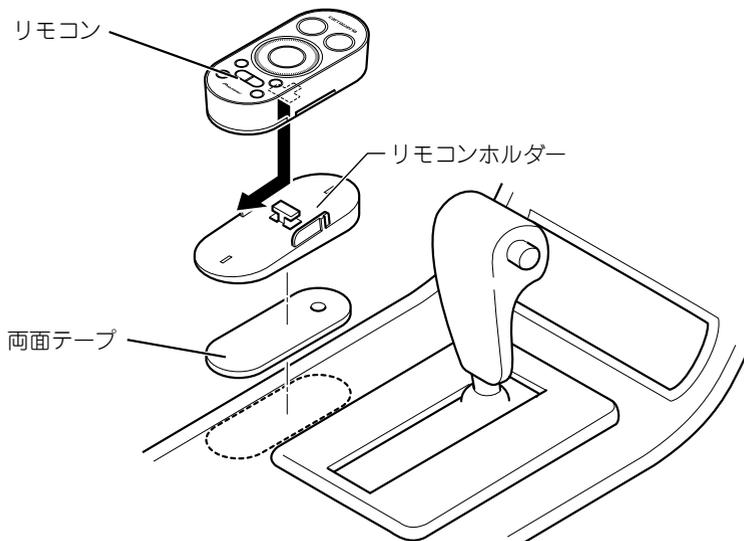
- 上図は右ハンドル車の例です。左ハンドル車に取り付ける場合は左右逆に取り付けてください。

リモコンの取り付け

つづき

両面テープでコンソールに取り付ける場合

付属の両面テープを使用して、リモコンホルダーを貼り付けます。



リモコンの取り外し方

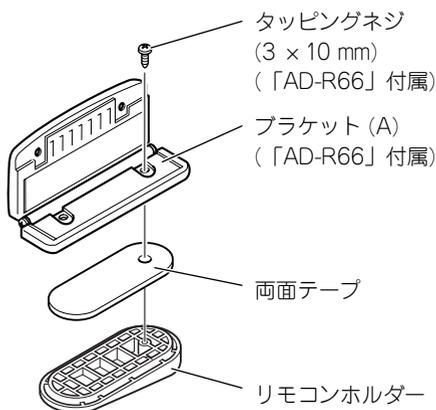
リモコンをリモコンホルダーから取り外すときは、図のようにスライドさせてから取り外します。



別売の「AD-R66」を使用してコンソールに取り付ける場合

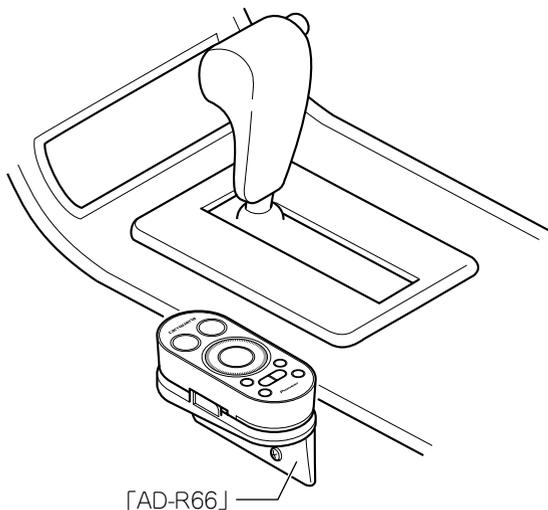
センターコンソールの幅が狭く、センターコンソール上にリモコンの取り付けスペースがない場合は、別売のメインコントローラーアタッチメント「AD-R66」を使用して取り付けます。

1 「AD-R66」に付属のブラケット (A) に リモコンホルダーを取り付ける



2 「AD-R66」を 車に取り付ける

「AD-R66」の『取付説明書』を参照して、車に取り付けます。



フィルムアンテナの取り付け

取り付け上のご注意

- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく貼り付けてください。
*保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条第4項第6号に対する、平成15年9月26日付の運輸省（現、国土交通省）令第95号をいいます。
- アンテナは、フロントウィンドウ貼り付け専用です。フロントウィンドウ以外には取り付けしないでください。
- 熱線やプリントアンテナ上には貼り付けしないでください。ショートや発熱、性能劣化の原因になります。
- 本書では、フィルムアンテナの取り付け前にピラーを取り外すよう説明していますが、ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両の場合は、絶対にピラーを取り外さないでください。フロントエアバッグの誤動作などの原因となり大変危険です。ピラーを取り外さずにフィルムアンテナを取り付ける方法については販売店にご相談ください。
- 必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。
- 車室内に取り付けるアンテナは、エアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなる場合がありますが、故障ではありません。
- 車種によって、取り付けられない場合があります。販売店に相談してください。
- 熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど、電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、受信感度が極端に低下します。お買い上げの販売店に確認してください。
- 必ず車内の取り付け場所に、市販のテーブルなどでいったんフィルムアンテナとアンテナケーブルを仮止めして、エレメントとアンプが貼り付けられることを確認してください。
- フィルムアンテナのフィルムやアンプの裏シートをはがした後は、給電端子などに手を触れないでください。静電気による故障や汗や汚れなどで接触不良の原因となります。
- フィルムアンテナは折り曲げないように、取り扱いに注意してください。
- 作業場所は、風が無く、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもってしまう場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてウィンドウを暖めておいてください。
- 他のアンテナから10cm以上離して取り付けてください。
- 指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- アンテナの余りをまとめる時は十分な曲げ角度（半径15mm以上）を確保してください。

他のフィルムアンテナとの干渉を考慮して貼り付け位置を決めてください。

一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼り直しできません。
必ずアンテナケーブルおよびフィルムアンテナを仮止めし、アンテナケーブルの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

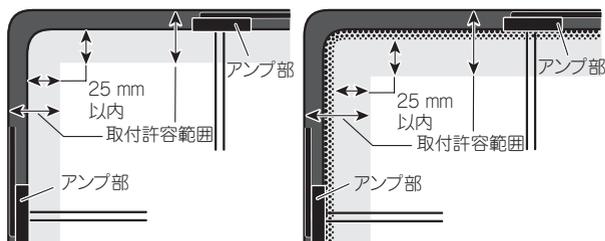
貼り付け位置について

⚠️ 必ずお守りください

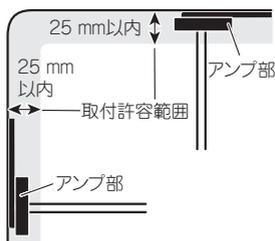
運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「アンブ部の貼付許容範囲」の位置に貼り付けてください。許容範囲外に貼り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

アンブ部の貼付許容範囲

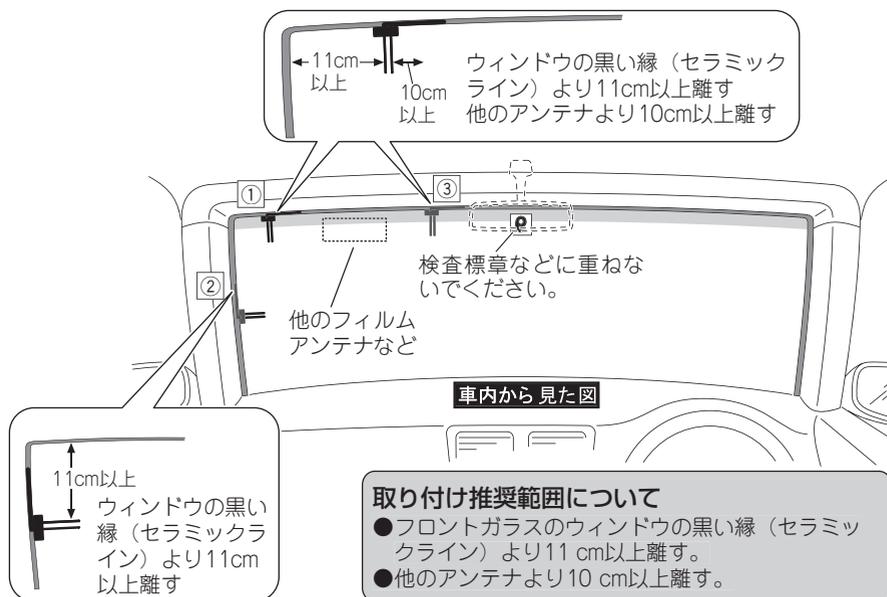
■ セラミックライン有り



■ セラミックライン無し



フィルムアンテナは、以下の推奨位置①～③のいずれかに取り付けてください。本書では、推奨位置①を例に説明します。



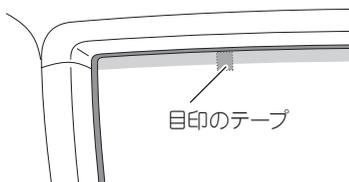
フィルムアンテナの取り付け

つづき

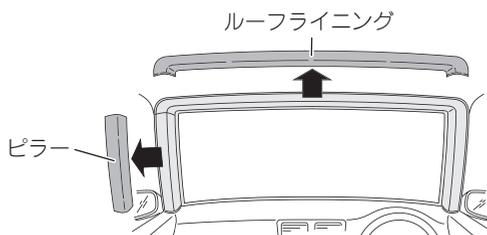
フィルムアンテナを貼り付ける

1 フィルムの仮位置を決める

フィルムアンテナの貼り付けの際、「貼り付け位置について」を参照して仮位置を決め、テープなどで目印を付けてください。



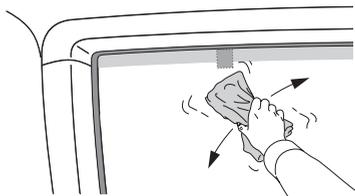
2 車内の内張り（ピラー、ルーフライニングなど）を取り外す



3 ケーブルを引き回す仮位置を決める

4 フロントウィンドウ内側の汚れ、油などを取り除く

フィルムアンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを、付属のクリーナークロスで取り除いてください。

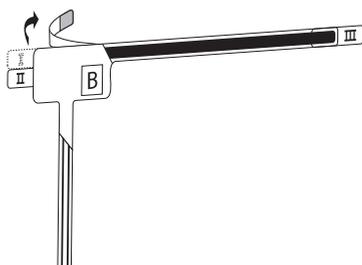


注：クリーナークロスで拭いたあとは、貼り付ける場所およびエレメントには触れないでください。

5 フィルムアンテナを貼り付ける場所を、十分に乾燥させる

6 セパレーター I をはがす

タグを持ってセパレーター I をゆっくりはがします。



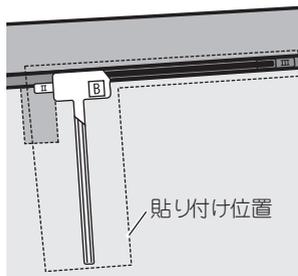
*セパレーター I をはがしたあとは、粘着面に触れないでください。

フィルムアンテナの取り付け

つづき

7 フィルムをフロントウィンドウに貼り付ける

ガラス面の目印にフィルムを合わせ、フィルムに空気が入ったり、シワが寄らないようにゆっくりと端から貼り付けます。また、一度貼り付けたフィルムをはがしたり位置を変えたりすることはできません。

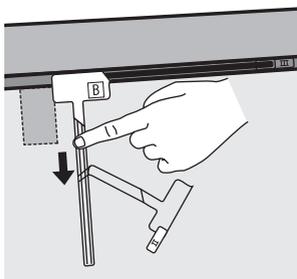


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからフィルムを貼り付けてください。

*ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。

8 セパレーターⅡをはがしながらエレメントを貼り付ける

指でエレメントをガラス面に押しつけながらセパレーターⅡをはがしてください。

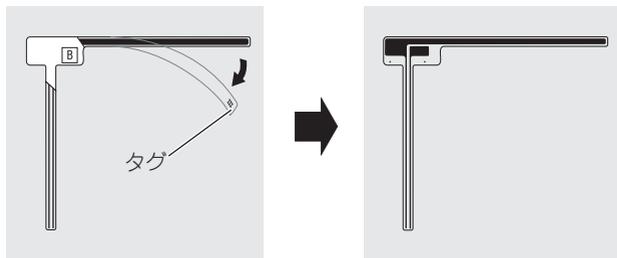


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからエレメントを貼り付けてください。

*手順10でアンプを貼り付ける部分には触れないでください。

9 保護フィルムⅢをはがす

エレメントがガラス面に貼り付いていることを確認しながら、タグを持って保護フィルムⅢをゆっくりはがします。

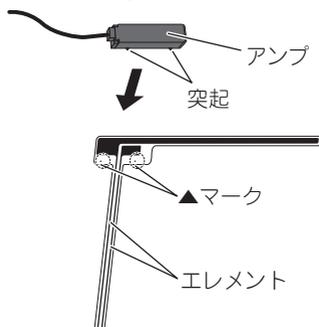


エレメントだけが貼り付く

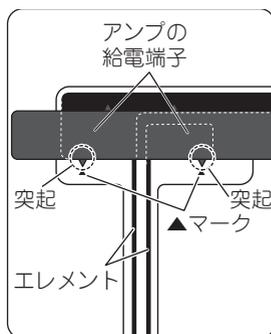
*エレメントが保護フィルムⅢと一緒にはがれる場合は、保護フィルムⅢを元に戻してガラス面に貼り付くように強く押しつけてください。

10 アンブをエレメントに貼り付ける

アンブの裏シートをはがして、エレメントの給電端子接触部の▲マークと、アンブの給電端子の突起を合わせるように貼り付けます。



注：ケーブルを引っ張った状態で貼り付けしないでください。

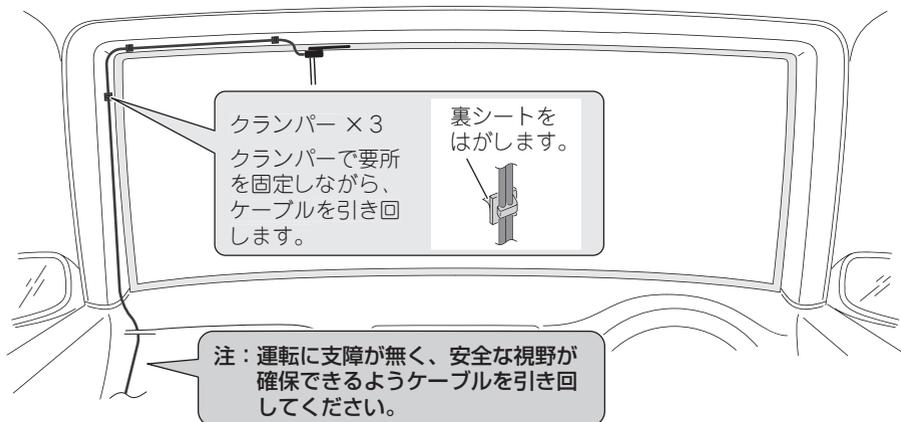


注：フィルムアンテナの▲マークとアンブ部の突起を合わせないと、受信できません。

フィルムアンテナの取り付け

つづき

11 ケーブルを引き回す



12 内張りを元に戻す

注：アンプのケーブル根元部に負荷がかからないように注意してください。

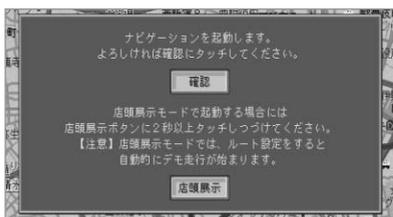
接続・取り付けの確認を行う

接続・取り付けが終わったら、本機を動作させ、接続・取り付けの確認を行ってください。

1 車のエンジンをかける



2 つぎの画面が表示されたら 確認にタッチする

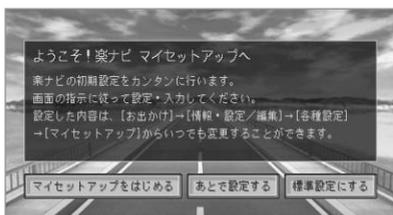


この画面は、初期学習が完了していないときにエンジンをかけると表示されます。

ご注意

- **店頭展示** にタッチしないでください。タッチしてしまった場合は、一度車のキーを抜いてから、エンジンをかけ直してください。

3 つぎの画面が表示されたら あとで設定するにタッチする



4 地図画面が表示されたら

情報・通信／設定
ハードウェア情報 接続状態
の順に操作する



5 接続状態を確認する (次ページ)



6 接続状態を確認したら、 「Navi」ボタンを押す

■ 接続状態画面の見かた

車速パルス：車速信号入力（ピンクリード線）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば、車を走行させると“ピッ”と発信音が生じ、数字とバーが表示されます。数字とバーは本機が測定したパルス数をあらわしています。“ピッ”音とパルス数は速度によって変化します。車速パルスの確認は、低速（時速5km程度）で行ってください。

GPSアンテナ：GPSアンテナの接続状態と受信状態を確認できます。正しく接続されていれば【OK】が、未接続の場合には【NG】が表示されます。

：右側に表示されるアンテナマークでGPSアンテナの受信状態を確認できます。電波の受信しやすい見晴らしの良い場所で2本以上バーが表示されていれば良好です。バーが1本以下の場合、GPSアンテナの位置を変えて2本以上バーが表示される位置に取り付けてください。

：右側に表示される衛星マークで、現在捕捉できているGPS衛星の個数が確認できます。測位に使っている衛星は橙色、受信中の衛星は黄色、電波を受信できない衛星は黒色でそれぞれ表示されます。3つ以上の衛星の電波を受信すると現在地の測位が可能になります。

Bluetoothユニット：Bluetoothユニットの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば【OK】、未接続の場合には【NG】が表示されます。

：右側に表示されるアンテナマークでBluetoothユニットの受信状態を確認できます。

※受信状態を確認するには、ナビゲーションのBluetoothの接続設定を行い、携帯電話と通信接続する必要があります。詳しくは『ナビゲーション&オーディオブック』の「Bluetoothの接続設定を行う」をご参照ください。

取付位置：ナビゲーション本体の取り付け状態を確認できます。必ずエンジンをかけた状態で停車して確認してください。停車時に【NG（振動）】が表示された場合は、測位の精度が悪くなります。車の振動が少ない位置にしっかりと取り付けて、停車時に【OK】が表示されるのを確認してください。また走行後に【NG（取付け角）】が表示された場合は、ナビゲーション本体の取付角度が許容範囲外です。取付角度（ 40ページ）を設定し、走行後に【OK】が表示されるのを確認してください。

パーキングブレーキ：パーキングブレーキスイッチ（若草色リード線）の接続状態を確認できます。ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけ直してください。パーキングブレーキを解除すると【OFF】、かけ直すと【ON】が表示されます。

電源電圧：車のバッテリーから本機に供給されている電源電圧が表示されます。エンジンアイドリング時に11～15 Vの範囲にないときは、電源コードの接続状態を再度確認してください。なお、表示誤差（±0.5 V程度）があるため、この表示は参考値です。

イルミネーション：イルミネーション（橙/白リード線）の接続状態を確認できます。車のライトを点灯させてください。ライトを点灯すると【ON】、消すと【OFF】が表示されます。

バック信号：バック信号入力（紫/白リード線）の接続状態を確認できます。パーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでから、シフトレバーをR（リバース）の位置からR（リバース）以外の位置にするとLOWからHIGHまたはHIGHからLOWに切り換わります。

ビーコンユニット：ビーコンユニットの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば【OK】、未接続の場合には【NG】が表示されます。

ETCユニット：ETCユニットの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば【OK】、未接続の場合には【NG】が表示されます。

取付角度の設定を行う

運転席側（左右方向）に5度以上（最大10度）傾いたコンソールにナビゲーション本体を取り付けた場合は、本来の性能を発揮するために取付角度の設定を行ってください。

- 1 地図画面で、 —
情報・通信/設定 — 調整・補正
— 取付角度補正 の順に操作する

- 3 向きを設定したら、「Navi」ボタンを押す

- 2 設定画面が表示されたら、向きを選ぶ



サブウーファーの設定を行う

サブウーファーを接続したときは、サブウーファーを固定した後、車の窓やドアを閉めた状態でサブウーファーの設定を行ってください。

- 1 低音を含む音楽を再生する

- 2 「AV」ボタンを押し、初期設定 → サブウーファー設定 にタッチする

- 3 各項目を選び、設定を行う



サブウーファー出力：ONに設定します。
位相：違和感が無く、低音の音量が大きく聞こえる方を選びます。
カットオフ周波数/レベル：適切な音質に調整します。

- 4 設定を終了したら、「SRC」ボタンを2秒以上押す

AV初期設定を行う

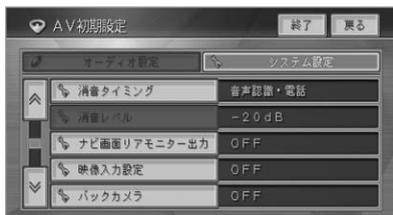
本機に外部機器を接続した場合は、AV初期設定を行ってください。

1 「AV」ボタンを押す

2 初期設定にタッチする



3 ▲、▼でページ送りさせて設定する項目にタッチする



ナビ画面リアモニター出力

本機のリアモニター映像出力端子にナビゲーションの映像を出力させるかどうかを設定します。

- ON：出力させます。
- OFF：出力させません。

映像入力設定

本機にVTRまたはマルチDVDプレーヤーなどを接続したときに設定します。

- VTR：VTRなど、本機でコントロールしない映像機器を接続したときに設定します。
- EXT：マルチDVDプレーヤー「XDVP-P70」など、本機でコントロールできる映像ソースのエクスターナルユニットを接続したときに選びます。
- OFF：どちらも接続していないときに選びます。

バックカメラ

本機にバックカメラを接続したときに設定します。

- ON：接続したとき。
- OFF：接続していないとき。

バックカメラ極性

本機にバックカメラを接続したときに車のバック信号の極性に合わせて設定します。

- HIGH：接続状態画面（[P.38](#)）で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が [HIGH] になる車両の場合はこちらを選びます。
- LOW：接続状態画面（[P.38](#)）で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が [LOW] になる車両の場合はこちらを選びます。

AUX設定

本機にRCA・バスインターコネクター「CD-RB10」などを使用して、外部機器の音声を入力するときに設定します。

- ON：外部音声を入力するとき。
- OFF：外部音声を入力しないとき。

5.1ch DSPユニット設定

本機に5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」などを接続したときに設定します。（ソースをOFFにしないと、設定できません。）

- ON：接続したとき。
- OFF：接続していないとき。

メモ

- 上記以外の設定項目については、『ナビゲーション&オーディオブック』の「AV初期設定」をご参照ください。

4 各項目を設定したら、終了にタッチし、「Navi」ボタンを押す

接続・取り付けが終わったら

センサー学習のエラーメッセージ

接続確認と各種設定を完了し、走行を開始すると本機は自動的に3Dハイブリッドセンサーの初期学習を行います。その際、つぎのようなエラーメッセージが表示されたときは、エラーの原因を取り除いてください。

<走行開始後のエラーメッセージ>

- [車速信号線が外れました。接続を確認してください。]
- [車速パルス信号が異常です。接続を確認してください。]
ピンクリード線（車速信号入力）の接続先および接続状態を確認してください。
- [3Dハイブリッドセンサーが正常に動作していません。本体の取付け角度や向きを確認してください。取付けが正常な場合は、お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。]
「ナビゲーション本体の取り付け（P. 21ページ）」を参照して、取付角度が間違っていないか確認してください。取付角度が正しい場合は、内蔵センサーの故障が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- [車速パルスが接続されていません。簡易ハイブリッドで動作します。]
ピンクリード線（車速信号入力）を接続してください。接続すると、3Dハイブリッドで初期学習をやり直します。

<その他のエラーメッセージ>

- [測位不能になりました。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。]
ナビゲーション本体の故障、劣化等が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- [GPSアンテナが接続されていません。接続を確認してください。]
- [GPSアンテナが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。]
GPSアンテナの接続を確認してください。正しく接続されている場合は、断線・故障・劣化等が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- [内蔵のセンサーが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。]
内蔵のセンサーの故障が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- [取付け位置の変化を検出しました。センサーの再学習を開始します。]
本機の取り付け位置の変化を自動で検出した事をお知らせするメッセージです。

接続・取り付けが終わったら

